

ることとなりたり。猶入學志願者の心得、願書の提出方、選抜試験の課目、受験者の携帶品等は、悉く載せて前記の日の廣告にあるを以て、必要の人々は右に就きて承知せらるべし。

○新設道路と門衛所の落成 兼て記したる本校構内を中斷して、屏風坂通りより谷中へ通ずる幅六間長百廿六間の新設道路は、昨年未に至りて全く落成し、兩門衛所も同時に竣成したるを以て、本年に入りてよりは從來の裏門は閉鎖せられ、新設道路の中央位置より左右に兩門を入ることとなり、道路は未だ車馬の通行を許さざるも、徒歩のものはその通行を默許しつゝあり。本校に取りては不便を來たしたるも、公衆は餘程便利を得るなるべし。因にいふ公然此道路の車馬の通行を許すは、來三月末頃なるべしと聞く。

○本校の改築落成と紀念展覽會 本校の改築は漸次に竣成を告げ、最早大部分は落成したる譯にて、此後は供待所倉庫等の雜建物を造營するのみなれば、左程に手數も掛らず、且經費も本年度限りなりとの事にて來る三月中には是非共全部竣成すべき筈にて、此竣成を告ぐると共に、恰も本年の卒業式あるべく、同式は毎年三月二十九日なれば、之に引續きて開校滿二十五年の紀念式を擧げ、生徒成績品並に所藏品の紀念展覽會を催さるべしといふ。日取は未だ確定せざれども三月三十日か三十一日頃より、凡そ五日間位開催せらるべき見込なりと。

## 関連事項

### ① 小場恒吉の起用

大正二年二月五日、小場恒吉（明治四十一年一月八日以降本校雇、図

案科助手）が助教授に任命された。小場は明治十二年秋田県生れ。

同三十六年七月本校図案科を卒業し、茨城県立龍ヶ崎中学校、秋田県立秋田工業学校の教諭を勤めたあと、同四十一年一月に本校雇（図案科助手）となった。彼は既述（35頁）のように大正元年から同三年にかけて高勾麗古墳の壁画模写に従事していたが、その傍ら、制作にも意欲を燃やし、大正二年一月二十五日、彼の「藤原式纒彩色手箱」は第一回賞美章受賞の榮譽に輝いた。この手箱は前年十二月に吾樂が開催した万蓋あるもの展覽會（香取秀真・津田信夫・石井吉次郎・堆朱楊成・藤井達吉・豊川楊溪・渡辺香涯・磯矢完山・小場恒吉ら出品）の出品作で、これが一年間に製作された美術および工芸品の中の最優秀作に与えられる『美術新報』主催の賞美章を授与されたのである。小場は日本古来の美術工芸および建築裝飾に関する研究家で、宇治鳳凰堂の彩色模様に着想を得、宝相花や唐草模様、纒彩色法や金泥による毛描き等々を応用してこの手箱を作り、これによって一躍名を知られるようになった（賞美章授与については、『美術新報』第十二卷第四号参照。また、同誌第十二卷第六号には小場が腐骨という筆名で製作談を寄せている）。



小場恒吉

家で、宇治鳳凰堂の彩色模様に着想を得、宝相花や唐草模様、纒彩色法や金泥による毛描き等々を応用してこの手箱を作り、これによって一躍名を知られるようになった

### ② 川端玉章死去

大正二年二月十四日、もと本校教授川端玉章が死去した。『東京